令和 ３ 年 ３ 月２６日

新見市長　戎　　斉　様

新見市観光事業審議会
会長　井　上　富　男

新型コロナウイルス感染症の収束を
見据えた新見市観光事業について（答申）

令和３年１月１８日新商第３３８号により諮問のありました「新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた新見市観光事業」について、審議の結果、別記のとおり答申します。

資料－２

令和2年度

第3回 新見市観光事業審議会資料

別記

（案）

新見市観光事業審議会
答 申 書

～ 新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた新見市観光事業 ～

令和3年3月26日

新見市観光事業審議会

観光には、宿泊業、飲食サービス業、運輸業、小売業、農業など幅広い産業が関わっていますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、観光需要は大きく減少し、観光関連事業者の経営は、非常に厳しい状況にあります。

新見市は、２０１９（令和元）年度の主要２０施設の入込客数約５９万５千人を２０２４（令和６）年度に７０万人とする目標を掲げ、その達成に向けてさまざまな取組を提示しました。

これを踏まえ、新見市観光事業審議会は、新型コロナウイルス感染症の収束を見据えて、新見市の観光需要を回復および拡大するために、新見市が実行すべき「新見市観光事業の行動」について提言します。

中でも、本答申書では、行動の方向性を示すとともに、継続して新見市の観光事業について協議を進める組織を設置すること、そして、将来的に観光のかじ取り役となる観光地域づくりを行う法人（ＤＭＯ）の設立を目指す取組を求めます。

また、インバウンドの回復が見通せない中で、人口減少社会を迎えた国内の観光対策としては、観光による出会いや交流により生まれた人のつながりによるリピート客の確保が重要となります。

その上で、市民ひとり一人が、自分たちの住む地域の観光資源の魅力に気付き、その地域を誇りに思えることで幸せを感じ、地域住民の暮らしが豊かになるよう、市、地域、観光事業者が一体となって、観光振興に取り組むことを期待します。

新見市観光事業の行動

1　入込客数の目標

区　分	2019年度	2024年度
主要20施設	595,000人	700,000人
主要10施設	273,000人	360,000人

2　入込客数達成に向けた行動

1　隣接市町や他県などの広域連携の実践（観光アクションプラン）

広域連携による観光モデルコースづくりなど、近隣観光施設（自治体、観光局、観光協会）と連携して誘客に取り組む。

2　市内の各地域間の連携・ネットワーク化（観光アクションプラン）

ゾーニングした市内6エリアそれぞれが情報交換・共有し、連携して誘客に取り組む。
6エリアが相互に連携する。

3　協議会の設置

新見市観光事業協議会を設置し、市域全体の具体的なアクションなどについて協議する。
6エリアごとに同協議会部会を設け、必要なアクションの実現に取り組む。

新見市観光事業の行動

２　入込客数達成に向けた行動

4　観光地域づくり法人（DMO）の形成（観光アクションプラン）

多様な関係者が参画した観光地域づくりを行う法人（DMO）の設立を目指す。

※　観光地域づくり法人は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人です。

このため、同法人が必ず実施する基礎的な役割・機能（観光地域マーケティング・マネジメント）としては、

(1) 観光地域づくり法人を中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成

(2) 各種データ等の継続的な収集・分析、データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略（ブランディング）の策定、KPIの設定・PDCAサイクルの確立

(3) 関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組みづくり、プロモーション

が挙げられます。

また、地域の官民の関係者との効果的な役割分担をした上で、例えば、着地型旅行商品の造成・販売やランドオペレーター業務の実施など地域の実情に応じて、同法人が観光地域づくりの一主体として個別事業を実施することも考えられます。

３　コロナ禍の行動

5　持続可能（サスティナブル・Sustainable）な観光

現在、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であり、また、新型コロナウイルスの世界的な感染がいったん収束しても、当面、同ウイルスと共存する環境が続くと予想される。国等が示す最新のガイドラインに沿った感染防止対策を徹底し、安全な観光活動が行えるよう、必要な対応を実施する。

参考

観光事業協議会および同部会のイメージ

観光事業審議会　１５人

観光事業協議会

１回開催　**全 体 会**　１５人

- ①北部会
- ②北西部会
- ③南西部会
- ④中央部会
- ⑤北東部会
- ⑥南東部会

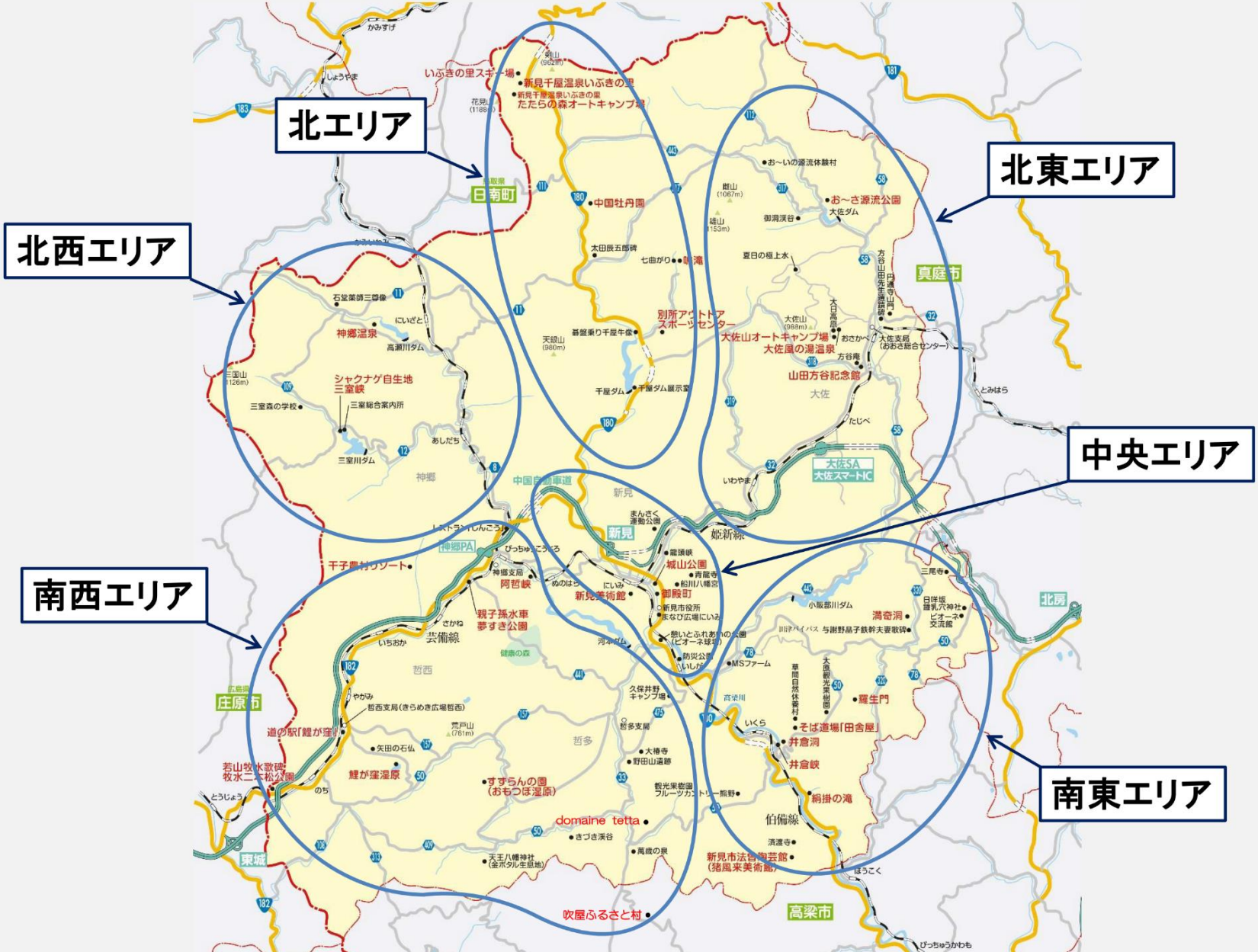
２回開催　**各 部 会**　２４人（４人×６部会）

部会構成メンバー（案）

千屋野の里	高瀬振興会	妹尾観光	御殿町まち歩きの会	ネイチャークラブ	満奇運営協議会
新見千屋温泉	神郷温泉	道の駅鯉が窪	新見美術館	源流公園を守る会	井倉洞
黒田商事	三室観光組合	紙の館･水車	新見駅	アーリーモーニング	羅生門を守る会
別所アウトドア	三国窯	阿新中央観光	観光案内所	大佐観光	草間台エコ
いぶきの里スキー場	移住支援センター	ｔｅｔｔａ	新見庄ロマンの里	山田方谷記念館	フルーツカントリー
別所フィッシング			新見公立大学	まんさく園	大原観光果樹園

新見市観光事業の行動

4　ゾーニングによるエリアの詳細



参考

エリア別の観光誘客数

エリア	誘客数	主要施設名	公表誘客数	主要施設誘客数	備考
北	13万3,000人	○新見千屋温泉	80	80	
		○いぶきの里スキー場	16	16	
		○別所アウトドア	2	2	
		花見養魚センター		30	
北西	3万5,000人	○神郷温泉	28	28	
		三室峡		7	
南西	13万4,000人	○紙の館･親子孫水車	18	18	
		○鯉が窪湿原	6	6	
		○千子	0		主要20施設の集計から除外
		道の駅鯉が窪		59	
中央	20万6,000人	あしん広場		168	
		新見美術館		24	
		観光案内所		10	
		御殿町･太池邸		4	太池邸のみ集計
北東	2万9,000人	○大佐山オートキャンプ場	14	14	
		○おおさ源流公園	6	6	
		○風の湯温泉	3		主要20施設の集計から除外
		まんさく園		3	
南東	13万2,000人	○満奇洞	51	51	
		○井倉洞	49	49	
		大原観光果樹園		20	
		羅生門		0	
計	66万9,000人	○は主要10施設(大佐は合算)	273千人	595千人	

北エリア

132,969人

参考

北エリア

行動

エリアの入込客数約１３万３千人。

神郷温泉（新見千屋温泉から３５分）、別所アウトドア（同２０分）、花見養魚センターとの連携を研究する。

金持神社（同２０分）、滝山公園（同２０分）との連携を検討する。

森林を活用したアスレチック、ジップライン、遊歩道などの整備や山の幸（山菜、キノコ、アマゴ、ジビエなど）を使った料理など、子どもや家族連れが楽しめる体験型コンテンツについて研究する。剣山、高梁川源流、牡丹園、ふゆさと、千屋牛、ワサビ、鳴滝、七曲がり、千屋ダム、赤坂城跡、楪城跡などの活用を研究する。

①新見千屋温泉いぶきの里

山陰地方からの誘客を図る。市内最大の入込客を市内の他施設に波及する仕組を研究する。

②いぶきの里スキー場

グリーンシーズンの有効活用（グラススキー・ソリなど）を研究する。

③別所アウトドアスポーツセンター

選奨土木遺産に認定された用郷林道七曲がり、鳴滝、千屋ダム、別所川を活用した取組を研究し、例えば、サイクリング、カヌー、渓流釣りなどの体験型コンテンツや手ぶらでバーベキューが楽しめるメニューなどを充実し、４年後に入込客を２倍、９年後に３倍の６千人とする。

北西エリア 34,432人

8 新見日南線　11 新見多里線　12 足立東城線

鳥取にちなんむらモクモクキャンプ

道の駅にちなん日野川の郷

神郷温泉 27,508人

高瀬湖畔オートキャンプ場 302人

三国窯

三室森の学校 122人

三室峡・三室総合案内所 6,500人

足立石灰

参考

北西エリア

行動

エリアの入込客数約３万５千人。

新見千屋温泉（神郷温泉から３５分）、花見養魚センター（同３５分）、別所アウトドア（同２５分）との連携を研究する。

鳥取にちなんむらモクモクキャンプ（同１５分）、道の駅にちなん日野川の郷（同２０分）、福万来ホタル乃国（同３０分）ホタル観賞ツアー、日野町の金持神社（同３５分）を絡めた日南町の福福（福成、福榮、樂樂福、大石見）神社をめぐるツアー（フクフクめぐり）などとの連携を検討する。

三室森の学校、三国窯、あまご養殖場、三室川ダム、氷室とうふ、長久牧場、トマト、健康王国などの活用を研究する。

①グリーンミュージアム神郷温泉　芝生化したグラウンドを活用する。アウトドアブームに乗り入込客増を図る。神の郷として日野町や日南町の神社との連携を研究する。

②三室峡･三室総合案内所

春のしゃくなげまつり、秋の紅葉まつりを継続する。イベント以外での活用を研究する。

③神郷第一スキー場　センターハウス（レストハウス、ロッジ）の今後について研究する。ゲレンデは当面放牧場として活用する。新たな投資を行わない。

南西エリア

133,872人

182 国道182号

33 新見川上線

441 下神代哲多線

レストランしんごう 9,245人

千子農村リゾート 185人

紙の館・親子孫水車 17,807人

道の駅鯉が窪 58,469人

鯉が窪湿原 6,160人

牧水二本松公園 300人

祥華 41,630人

久保井野キャンプ場 76人

すずらんの園

domaine tetta

帝釈峡

荒戸山

天王八幡神社・金ボタル

吹屋ふるさと村

参考

南西エリア

行動

エリアの入込客数約１３万４千人。
道の駅鯉が窪と紙の館・親子孫水車(道の駅鯉が窪から１５分)の連携を研究する。
吹屋ふるさと村(親子孫水車から３０分)、帝釈峡観光協会(道の駅鯉が窪から２０分)との連携を検討する。
矢神駅(御衣黄桜)、矢田石仏、太鼓田植、三光正宗、ペンションノア、イノシシ肉、レストランしんごう、バイオマス発電所、荒戸山、荒戸神社、哲多和牛牧場、リンドウ、荒戸山ワイナリー、天王八幡神社、祥華、すずらんの園（おもつぼ湿原）、健康の森、domaine tetta、クニファーム、野田山遺跡、山室軍平、備中神楽、備中漆などの活用を研究する。

①道の駅鯉が窪

道の駅の人気が継続する中で、地元の野菜やコメといった産直コーナーなど内容の充実を図り入込客増につなげる。

②鯉が窪湿原

花が咲く５月から１０月にしっかり情報発信し入込客増を図る。有料ガイドの育成を検討する。

③千子農村リゾート

地域団体などと今後について協議する。

参考

南西エリア　つづき

行動

④牧水二本松公園

春の野点、秋の歌碑祭などのイベントを継続する。熊谷屋の活用を研究する。

⑤紙の館･親子孫水車

食堂のリニューアルオープンを契機に、マルシェなどの定期的なイベントの開催や紙すき体験の魅力発信を強化し入込客増を図る。

⑥久保井野キャンプ場

地域団体などと今後について協議する。

中央エリア

205,788人

まんさく運動公園

さーちゃんミニヤギ牧場 500人

新見公立大学

新見

観光案内所 9,865人

新見美術館 23,423人

城山公園

まなび広場にいみ

青龍寺

船川八幡宮

御殿町 4,000人

あしん広場特産館 168,000人

あしん広場グリーンセンター 20,000人

焼肉千屋牛 60,000人

ピオーネ球場

防災公園

参考

中央エリア

行動

エリアの入込客数約２０万６千人。
あしん広場特産館(入込客数１７万人）、新見駅、市域周辺観光施設との連携を研究する。
吹屋ふるさと村(新見駅から３０分)との連携を検討する。
さーちゃんミニヤギ牧場、甌穴、城山公園、三日市ケレップ、まなび広場にいみ、まなびの森にいみ図書館、ピオーネ球場、防災公園、まんさく運動公園、城山公園、青龍寺、船川八幡宮、石灰採掘場、備中白小豆などの活用を研究する。

①新見美術館

新見駅周辺まちづくりの核として魅力的な展覧会を継続するなどし、入込客増を図る。

②御殿町

まち歩きガイドの会の知識・経験を継承する。備中町並みネットワークと連携する。太池邸(Trattoria Arca)、松葉、津国屋などの町家、御殿町センター、にいみ雛まつり、土下座まつり、ベッキオバンビーノを有効に活用し入込客増を図る。駐車場の整備、お金を使ってもらう仕組みを研究する。

③観光案内所

土産物の充実と土産物販売所の周知など自主財源を確保しながら、観光振興に取り組む中心組織として強化を図る。

参考

中央エリア　つづき

行動

④新見駅　新見の玄関口、新見駅周辺まちづくりの核として、連携して情報発信を行うことにより、市全体の入込客増につなげる。また、新たな駅のシンボルについて研究する。

⑤新見公立大学　新見市唯一の高等教育機関である同大学と連携し、観光地域づくりを研究するとともに、大学生の情報発信力を活用する。

⑥新見庄関連史跡

　１９９０（平成２）年ボーイスカウト新見第一団がたまがき書状の返書を東寺から新見市へ伝達。１９９１年新見庄まつり開催。１９９３年中世たたら製鉄再現操業開始。１９９７年たまがき書状（東寺百合文書）が国宝に指定。史跡の価値・ストーリーを整理し、歴史を活かしたまちづくりを観光事業に発展させることを研究する。

北東エリア

28,640人

32 新見勝山線　58 北房川上線　112 大佐日野線

大井野源流体験村　58人

雄山・雌山

赤松溪谷

御洞溪谷

夏日の極上水

まんさく園　3,000人

大佐サービスエリア

岩山駅

道の駅がいせん桜新庄宿

おおさ源流公園　6,115人

大佐山

大佐山オートキャンプ場
13,497人

大佐風の湯温泉　3,125人

アーリーモーニング
1,500人

方谷庵・山田方谷記念館
1,345人

醍醐桜

勝山町並み保存地区

参考

北東エリア

行動

エリアの入込客数約２万９千人。
まんさく園、アーリーモーニングと連携する。
道の駅がいせん桜新庄宿（大日高原から３５分）、勝山町並み保存地区（同３０分）、醍醐桜（同３５分）との連携を検討する。
大佐神社、方谷庵、大井野源流体験村、雄山雌山、赤松渓谷、御洞渓谷、夏日の極上水、大佐サービスエリア、岩山駅（鬱金桜）、ヒスイ輝石、大佐茶などの活用を研究する。

①大佐山オートキャンプ場

指定管理者は、シャワートレッキング、洞窟探検、カヌー体験などの体験型コンテンツを提供しており、他エリアの見本とする。トレーラーハウス３棟を整備し、アウトドアブームに乗って入込客を伸ばす。

②おおさ源流公園

大佐山オートキャンプ場と連携し入込客を伸ばす。

③大佐風の湯温泉

７月、８月、９月のみ営業。現状維持。

④山田方谷記念館

高梁川流域連携中枢都市圏事業などと連携し入込客を伸ばす。

南東エリア

131,383人

180 国道180号

50 北房井倉哲西線

78 長屋賀陽線

三尾寺

ピオーネ交流館

備北ハイランドサーキット

満奇洞 50,693人

草間の間歇冷泉

羅生門・さくら公園

大原観光果樹園 20,000人

草間自然休養村 544人

田舎屋 8,892人

井倉洞 49,052人

絹掛の滝

MSファーム 428人

石灰採掘場

フルーツカントリー熊野 600人

猪風来美術館 1,174人

参考

南東エリア

行動

エリアの入込客数約１３万２千人。
大原観光果樹園、ＭＳファームと連携する。
真庭市北房地域の観光施設（満奇洞まで１５分、井倉洞まで３５分）との連携を検討する。
絹掛の滝、田舎屋、カルスト山荘、ピオーネ、蕎麦、大根、モモ、ナシ、リンゴ、柴かき、茅かき、草間の間歇冷泉、三尾寺、ピオーネ交流館、宇山洞、日咩坂鐘乳穴、バクダンキャンディー、備北ハイランドサーキット、備中神楽、済渡寺（あじさい）、法曽茶、フルーツカントリー熊野、石灰採掘場、ＳＬ（Ｄ５１）などの活用を研究する。

①満奇洞　黒字施設。閑散期の１２月から２月に有効なイベントを開催し入込客増を図る。

②井倉洞　黒字施設。洞前の浸水対策を実施し、大規模浸水災害からの復興を目指す。

③羅生門・さくら公園　観光庁の誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業で蓄積した知識・経験を活かして、滞在型コンテンツの造成と有料観光ガイドの実践に取り組み、入込客増につなげる。

④猪風来美術館

春・秋の縄文野焼き祭を継続するなどし、入込客増を目指す。

市全域

行動

主要１０施設の入込客数約２７万３千人、主要２０施設の入込客数約５９万５千人。

２０２４年度に主要２０施設で入込客数７０万人（１０万５千人・１７．６％増）を目指す。

入込客数の目標を達成するため、本市が抱える観光課題の克服に向けて策定した「第３次新見市総合計画」に掲げる４つの主要な施策・取組と「新見市観光アクションプランに掲げる」２２のアクション（行動）に取り組む。

取組にあたり、新たに、観光事業協議会（全体会）を設置し、市域全体の具体的なアクションについて協議する。

観光事業協議会に、本市観光事業の現状と課題を把握するために設定したエリアごとに６つの部会を設け、それぞれのエリアで必要なアクションの実現に取り組む。

部会では、意見交換、入込客数（１７．６％）増に向けて、観光施設ごとに誘客の取組を研究し、エリア内の観光資源の掘り起こしのほか、エリア内各施設との連携、市内の他エリアとの連携のほか、近隣の市町村（高梁市、真庭市、新庄村、鳥取県日野町・日南町、広島県庄原市・神石高原町）との連携を検討する。

参考　新見市観光アクションプランの具体的なアクション

資料－３

４つの基本戦略

１　一元的な情報発信とブランドプロモーション

１０の戦略プロジェクト		22のアクション		具体的なアクション
1	情報の受発信の体制構築	1	ポータル（ＷＥＢ）サイト立ち上げ	観光ＷＥＢサイトの強化を図ります。
		2	新見ファン開拓・組織化と情報発信	マスコットキャラクター、ふるさと大使、ふるさと市民制度の活用を積極的に行います。
2	地域イメージ・ブランドの発信 プロモーションの展開	3	地域のキラーコンテンツ・イメージの積極的な発信 ここにしかないものに光をあてたストーリー	「白と黒の不思議・・・」の考え方やストーリーを継承します。 白：石灰、鍾乳洞、温泉、雪、ワイン、御殿町、サギソウ、スズラン、米、滝・清流 黒：千屋牛、ピオーネ、キャビア、ワイン、御殿町、たたら、ＳＬ、木炭
		4	市全体のプロモーション展開	市の認知度を高めるためＷＥＢを中心に有効な広告宣伝を行います。 高梁川流域圏自治体（備中町並みネットワーク含む）と連携を図ります。 岡山県観光連盟、新見市観光協会と連携します。
3	運営管理の徹底と戦略組織づくり	5	定期的な顧客満足度調査の実施	アンケートにより顧客満足度などを調査し、事業効果を分析・検証します。 施設管理事業者に対し、入込客数に加え、世代などの情報収集を依頼します。
		6	各種取り組みをマネジメントする人材の育成・登用	観光まちづくりをマネジメントする人材を育成・登用し、ＤＭＯの設立につなげます。

２　個々の魅力づくりと受入れ体制づくり

１０の戦略プロジェクト		22のアクション		具体的なアクション
4	地域に眠る資源の掘り起こしと磨き上げ	7	地域の資源“お宝”発見とデータベース化	新見庄や阿哲台といった地域特有の資源について情報を整理します。
		8	地域の魅力を伝える地域学「新見学」ストーリーの編集	地域の歴史、文化、風土、暮らし、偉人などの情報を整理します。
		9	地域ならではの特徴ある食・土産物の開発	地域の伝統的な食や特産物を生かした土産物の研究・開発を行います。 飲食店、学校などと連携し、新たな食（メニュー）の開発を図ります。 「千屋牛食べ歩きマップ」のような、新たな「食のマップ」を研究します。
5	地域資源を活かした体験プログラムづくり	10	資源の磨きがけによる特徴あるプログラムづくり	民泊のほか農泊（農業体験ツーリズム）、産業体験ツーリズムを研究します。 付加価値の高いコンテンツを研究します。
		11	プログラムの組み合わせによる着地型の(ディープな)旅行商品づくり	富裕層向けおよびインバウンド向けコンテンツを研究します。
6	持続可能な受入れ体制づくり	12	運輸事業者や旅行会社との連携による商品の流通	周遊型観光ツアーや予約型観光タクシーを、岡山ディスティネーションキャンペーン(DC)などの各種イベントでＪＲやバス事業者などと連携させたり、観光商談会などでＰＲし誘客につなげます。
		13	観光コンシェルジュ・まちづくり事業体の形成	多様な関係者が参画した観光地域づくりを行う法人（ＤＭＯ）の設立を目指します。

３　地域間連携とネットワーク化

１０の戦略プロジェクト		22のアクション		具体的なアクション
7	新見市の観光・交流のものがたりづくり	14	他地域の魅力を知る～市民による観光・交流の実践	市内の各地域間の連携・ネットワーク化を図るため関係者による情報交換を行います。
				市の魅力を市民自らが再認識できるように市民向け制度を拡充し観光・交流を推進します。
		15	「新見ものがたり」観光モデルコースづくり	季節ごとに魅力的な観光モデルコースの設定に取り組みます。
		16	隣接市町や他県などの広域連携の実践	広域連携による観光モデルコースづくりなど隣接市町村との連携を提案します。
8	おもてなしの心・環境づくり	17	次世代の地域文化を担う人材育成とおもてなしの演出	小・中・高校生に地域の魅力やすばらしさを伝え地域への愛着とおもてなしの心を育みます。
		18	観光におけるユニバーサルデザインの推進と五感を活かした観光	すべての旅行者(高齢者、障がい者、外国人)が不自由なく観光が楽しめる環境づくりを推進します。
				視覚だけでなく音や香りなど五感を通じて楽しめる観光コンテンツを研究します。
		19	地域の魅力を伝達するガイドの養成とスキルアップ	魅力的な観光ガイドやインストラクターの育成とスキルアップを図ります。

４　交通環境整備と快適回遊の実現

１０の戦略プロジェクト		22のアクション		具体的なアクション
9	二次交通の充実化	20	観光乗合タクシー・観光タクシーの充実	予約型観光タクシーの魅力的なモデルコースづくりを進めます。
				岡山ＤＣに向けてJRや観光バスとタイアップ企画を研究します。
10	快適回遊のためのアクセス環境づくり	21	地域を安心して巡れる交通環境づくり	観光地を迷わずに巡れるよう案内看板などの整備や多言語化を図ります。 旅行形態（団体、家族、友人、個人など）に応じた駐車場の整備を図ります。
		22	安全・快適な巡り歩き環境づくり	御殿町まち歩きマップやにいみ世間遺産まち歩きマップといった散策マップづくりを研究します。